

福島県 教育新聞

発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 瀬戸 禎子
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

ろうぎんのキャッシュカードなら
ATMお引き出し手数料が

実質 **0円**

ご利用手数料はいったんご負担いただく場合がありますが、即時キャッシュバックいたします。

東北労働金庫

学校職場に必要なもの、それは…自立ではなく、支え合い!

4月16日(土)ユラックス熱海において、第72次教育研究分科会推進委員会が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大の状況が心配されましたが、感染予防対策をしっかりと行い、対面形式での開催となりました。

全体会では、教育課程編成検討推進委員会から、昨年中教審から答申として出された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」から見えてくる問題点について、報告がありました。その後、関西大学教授の広瀬義徳さんから「自立?孤立?やっぱり支え合い!」というテーマでの講演を受けました。

分科会は、7つの分科会が行われ、秋の県教研に向けた協議が行われました。



〈中教審答申から見えてくる問題点〉

「個別最適な学び」と聞くと、あたかも子どもたち一人一人に応じた学習と受け止められがちになります。しかし、「個別最適化」とは、資本主義経済の中で推し進められてきた「自己責任」から生まれた理論です。

私たちは、子どもたちを分断孤立させる「個(の能力)に応じた学習」最適化計画に対して、能力は最初から他者や社会・文化に培われたものであるという「能力の共同性」の立場に立ってこれからも学習を進めていくことが大切です。



〈広瀬さんの講演から〉

- 若い教員が研修で薦められたそうだが「学校スタンダード」はよくよく考えると変!「足裏がピタッ」「手はまっすぐ上に」「授業のあいさつ後、先生の顔を2秒見る」とか、おかしい。
- 教職員の長時間労働は、「考えること」を奪っている。より長く、より多く指導する先生が本当に立派なの!? 現状人員による業務改善・効率化の限界は明らか。
- 「自立」したい人と「依存」してる人が別々に存在するのではなく、誰もが「依存性/自立性」を両方抱えながら相互依存の状態にいるのがベストな状態。
- 共有化して支え合う仕組みを作ることが大切。
 - ・「休み」(休暇・休憩・休養・休職)を取り合える持続可能な職場文化
 - ・学級王国や専門性の形式的殻を破る、越境的な振る舞いや活動領域を拡げる。(文理融合・領域的横断に挑戦、仕事上で「世話を焼く」「声をかける」「話を聴く」「買って出る」「頼る」)
- 『「仲間とサボる」=不要な業務は止める・減らす』が実践できれば、学校は変えられる。



〈分科会から〉

7つの分科会(美術教育、技術・職業教育、インクルーシブ教育、両性の自立と平等をめざす教育他3分科会)では、第71次全国教研の報告と秋の県教研に向けて討議の柱等が話し合われました。

カリキュラムづくりと評価分科会



学校現場の実態を、直掬県教委へ!

初! オンラインでの県教委交渉

4月27日(水)、中央執行委員と支部代表者によって、春闘の県教委交渉を行い、教職員の長時間労働の解消に関する内容を中心に要求しました。

多忙化の実態を伝える中で、各地区の体育担当者連絡協議会で示された「自分手帳活用率100%」について^{ただ}質しました。県教委とは、2015年の交渉で県教組と確認した「自分手帳は家庭で活用すべきものであること」を再度確認しました。

また、多忙化の要因となっている、学校に導入される〇〇教育の増加で、スクラップ&ビルドになっていない現状を訴えました。県教委から出された「教職員多忙化解消アクションプランⅡ」にもある校務支援システムの問題点についても触れ、改善するために現場からの課題を吸い上げるよう強く要求しました。



県教組が長年要求した、 事務職員の新採用者実務研修が実現!

県教組で長年要求してきた、学校事務職員の初任者に対する実務研修が今年度から実施されました。県の事務研と連携した取り組みということでした。県教組では、研修内容等について、今後も改善を図っていくよう要求していきます。



前向きだと思われる回答

高速道路利用基準の見直しについて、知事部局の動向を見て、研究していく。

病気休暇取得について、同一疾病で取得できる要件を県職員と同等となるよう研究していく。(現行、1年間経過しないとリセットされない。)

2022年度より、8人在籍の特別支援学級に対し、非常勤講師を配置。60校に配置予定。



ど存知でしたか?



労働組合ってなに?

労働組合を一言で言うと、「労働条件の改善や賃金の底上げをめざして、働く人の意見を集約し、交渉する組織」のことです。

過度な業務量を理由に有給休暇の使用を拒否される、財政難を理由に賃金カットが行われる等、雇用者と労働者の間で利害が一致しない場合がしばしば生じます。その際に「1人で声をあげる」のではなく、「みんなで声をあげて交渉する」のが労働組合の役割です。

教職員が入る労働組合は?

福島県の教職員(主に義務制の学校)の労働組合は、「福島県教職員組合(通称:県教組)」です。教員・養護教員・事務職員・栄養教職員・臨時採用教職員・再任用教職員、学校で働く人は誰でも組合員になることができます。

県教組では、労働条件改善と教育研究を運動の両輪と考え、「教育」そのものに関する研究・研鑽をしています。

また、組合員の相談や福利厚生についての案内なども行っています。お気軽にご連絡ください!



中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が危ない!

～「令和の日本型学校教育」に抗して～

私たちが大事にしたいもの…⑪

〈中学校理科の実践から〉



10年ほど前のこと。天の川やいくつかの惑星の写真を見せた後の休み時間、子どもが寄ってきた。

「先生、オレたち、あのくらいでは感動しないですよ。今は、CGでもっとすごいキレイなもの見慣れてますから。」

「そうだよな」と納得もしたが…。

それ以来、私の実践の中での大きな課題は、「VR（バーチャルリアリティ）を越えてホンモノの魅力をどう伝えるか」となった。

最近のデジタル写真技術は…。

- 人間の目ではとらえることができない天体の姿を容易に撮影できる。
- もはやICTの助けなくして天体の授業は考えられない。

しかし、「何かが違う」「何かが足りない」という思いも強くしている。



自分の中学時代

- 天体写真ははっきりしない白黒
- 解説図は手書きのイラスト

だから ↓

天体の姿、宇宙の構造に思いを馳せ、友達と議論した。

現在の子ども

- 昔と比べて圧倒的にイメージを膨らませ理解を深める条件が整っている。

しかし ↓

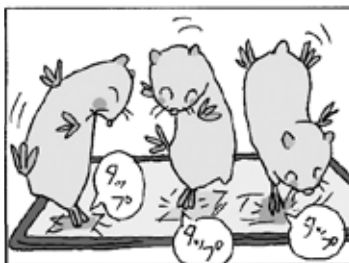
かつては時間をかけてようやく理解したことが、見ただけで「分かった気」になってしまうことが多い。



一枚の写真を、もっとよく見つめて欲しい。
VRやCGを駆使してわかりやすくすること、よく見えるようにすることが、子どもたちの発達を妨げ、豊かな感性を奪っていないだろうか。

先日、3年生の理科は、校庭に天体望遠鏡を持ち出して昼間の金星を観察した。肉眼で見えるギリギリの金星に「見える」「見えない」で盛り上がり、望遠鏡の中の金星に「うっそ!月!?!」と驚きの喚声。今までコンピューターシミュレーションで金星の見え方の学習をしてきたが、本物から味わう感動はやはり、大切にしたいものだ。

は学校で! Monster



合格祈願! ～「TOPPA塾」実施～

仙台市「kei塾」の先生による、教員採用試験対策講座「TOPPA塾」を開催しました。4月は教職教養対策・小学校全科対策の講座を実施しました。

参加した方からは、「苦手な分野を丁寧に解説してもらえたので、自信がついた。」などの感想が寄せられ、好評でした。5月には、中学校専門科目対策の講座を、動画配信の形で実施します。受講されたみなさんの合格を心から願っています。



※2次試験対策講座は9月に行います。詳細は後日改めてお知らせします。

みんなのひろば ～花見山 福島市～

コロナ禍となってから、なかなかお花見にも行けなかった2年間でしたが、今年は花見山で春の訪れを感じることが出来ました。

朝早くからウォーキングがてらのお花見となり、きれいなお花に癒やされつつ、普段の運動不足も解消されて、とても良い1日のスタートとなりました。これからの時期もいろんな花見が楽しみです。



S. N

五月のすがすがしい晴天、孫と公園に向かった。四歳の孫は何にでも興味を示す。道端のたんぽぽ、テントウムシ、アリ…みんなが彼女の友だちだ。それぞれに話しかける。

「ありさんがんばって、もう少しで仲間のところへ行けるからね」

つないだ小さな手は決して離さずに、本気で話しかけている孫は、ぼくを何とも言えない温かい気持ちにさせてくれた。

孫は、あと二年で小学生になる。公立小学校選択制／中学校受験率九五％／公立小学校の二極化／私立小中一貫校…東京は学校がたくさんあってどこに入れるか考えるのが大変と息子が言う。地域の小学校に入るのが当たり前はもう時代遅れなのだろうか？福島はそんなことはないだろう。ところがそうでもなさそう。二〇二五年福島県立安積中学校・高等学校が開校する。中高一貫校として、難関大学や医学志望者を含めた生徒の進路実現に対応した教育課程を準備するそう。入るのも競争、入ってから競争。どうか十二歳の子どもの心が傷つきませんように。それを願うばかりだ。

「じいじ、きょうは雲が一つもないね。空が青いよ。」孫に言われて、ぼくも空を見上げた。本当に雲ひとつない真っ青な空だ。ふとこんなフレーズが浮かんできた。

「青い空は、青いままで。子どもに伝えたい。」学生時代によく歌った歌だ。もう歌う機会やこの歌を知っている人も少なくなってしまう。焼夷弾による胸の傷跡を見せてくれた父ももういない。ウクライナ戦争以降、軍備の増強や核兵器保持の必要性が声高になってきている。戦争経験者が減り、反戦歌が減り…時代は変わっていく。でも、ヒロシマ・ナガサキそしてフクシマの悲劇はなくなりはない。核は戦争は人類を滅亡に導く。

孫の小さな手のぬくもりを感じて、この子たちがずっと笑って過ごせるようにしたいと思った。じいじ、もう少し頑張らないとな。かつて息子と手をつないで歩いた道を孫と同じように歩いている。命のつながりを思わせる孫との幸せなひとときを過ごした。

(K・I)

ノスタルジー

